

インフルエンザについて

最近はコロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザウイルス感染症も流行しています。そこで今回はインフルエンザについてです。当院で使用されている抗インフルエンザ薬を以下にまとめました。

一般名	オセルタミビル	ザナミビル	ラニナミビル	ペラミビル		
商品名	タミフル	リレンザ	イナビル	ラピアクタ		
						
投与方法 (剤形)	内服 (カプセル、ドライシロップ)	吸入		注射		
作用機序	ノイラミナーゼ阻害作用により、細胞からのウイルスの遊離を抑えて、ウイルスの増殖を抑える					
用法・用量	治療	通常	成人、小児(37.5kg以上) : 1回75mg 幼小児 : 1回2mg/kg 新生児・乳児 : 1回3mg/kg 1日2回5日間	成人・小児 : 1回10mg (27リスター) 1日2回 5日間	成人・10歳以上の小児 : 1回40mg (2容器) 単回 10歳未満の小児 : 1回20mg (1容器) 単回	成人 : 1回300mg 小児 : 1回10mg/kg 15分以上かけて点滴静注、単回 ※重症化するおそれのある場合、1回600mgまで増量可。連日投与可。
	腎機能低下患者	成人 : 30<CCr 75mg1日2回 10<CCr<30 75mg1日1回 CCr≤10 推奨用量は確立していない	減量の必要なし	減量の必要なし	通常 : 50≤CCr 1回300mg 30≤CCr<50 1回100mg 10≤CCr<30 1回50mg ※重症化するおそれのある患者の場合、通常量の倍量投与可。	
	予防(保険適応外)	通常	成人 : 1回75mg 1日1回7-10日間 小児(37.5kg以上) : 1回75mg 1日1回10日間 幼小児 : 1回2mg/kg 1日1回10日間	成人・小児 : 1回10mg 1日1回 10日間	成人・10歳以上の小児 : ①単回投与の場合 1回40mg ②2日間投与の場合 1回20mg 10歳未満の小児 : 1回20mg単回	適応なし 予防効果は、タミフル、リレンザは連続している服用期間のみ、イナビルは服用開始から10日間有効とされているよ
	腎機能低下患者	成人 : 30<CCr 75mg1日1回 10<CCr<30 75mg隔日 or 30mg1日1回 CCr≤10 推奨用量は確立していない	減量の必要なし	減量の必要なし		
特徴	耐性ウイルスの報告が少ない。 牛乳アレルギーの患者に注意(乳糖含有)			内服、吸入不可能な場合にも投与可能		

～小児のインフルエンザ～

①異常行動に注意

抗インフルエンザ薬の使用の有無に関わらず、インフルエンザに罹患した小児が転落する等の異常行動が報告されています。少なくとも治療開始後2日間は一人にしないようにしましょう。

②吸入薬が使用可能か

小児はデバイスを吸入せず、吹いてしまうこともあります。可能であれば吸入の練習をしてから使用しましょう。吸入確認用のデバイスがあります。

③解熱剤の使用について

インフルエンザの小児に対して解熱剤を使用する場合には、**アセトアミノフェン**を使用するようにしましょう。アスピリン使用によるライ症候群の発症が指摘されています。また、NSAIDsのうちシクロフェナク、メフェナム酸はインフルエンザ脳症の悪化因子とされています。

～予防の基本はワクチン～

高齢者、重症化リスクの高い患者、その家族、妊婦、医療従事者や高齢者施設職員などはインフルエンザワクチンの接種を考慮しましょう。

国内の研究によれば、65歳以上の高齢者福祉施設に入所している高齢者については34～55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があったとされています。

